

尼崎市長様

尼崎市市民提案制度 実施結果報告書

尼崎市市民提案制度実施要綱に基づき、次のとおり報告します。

1 提案概要

団体名及び 代表者氏名	社会福祉法人みんなの労働文化センター 理事長 中尾 圭一
事業名	学校給食用牛乳パックの回収事業（小学校給食関係事業費）
事業所管課	教育委員会事務局 学校教育部 学校給食課
事業内容	尼崎市立小学校から排出される学校給食用牛乳紙パックの収集、再資源化を図り、 ごみの減量化及び資源の有効利用など、学校現場における環境教育の機会を創出す るとともに、就労継続支援B型施設利用者の就業訓練の推進を図る。 【令和6年度における実施期間及び場所】 期間 令和6年4月～令和7年3月 場所 尼崎市立小学校4校

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- 下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、D（まったくできなかった）
- 結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- 協議内容は「3総合評価」に記載する
- 結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	C	C
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	B	B
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	C	C
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	D	C
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	B	B
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	D	D
その他（契約締結後にあらかじめ任意で設定する項目、項目数は不問）		
(1)		
(2)		

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	再資源化が図られた牛乳パック量（回収された牛乳パック重量）
	測定方法	回収牛乳パックの重量測定
	結果	251.4 キログラム（回収重量）
2	評価指標	
	測定方法	
	結果	

3 総合評価

協働側面の評価
・令和6年度においては、立花地区へ実施範囲を拡大することを目指したが、学校側との調整の結果、牛乳パックの洗浄・乾燥作業の負担、アレルギー児童への配慮等の課題の解消が困難なため、実施校は4校に留まる。
事業効果の評価
・少量ではあるものの、従来ゴミとして焼却処分されていた学校給食用牛乳パックの再資源化につながった。 ・学期ごとの回収量や、その効果を示すことで、リサイクル作業に関わった児童に再資源化の意味や効果を知ってもらうことが出来た。
総評
・学校給食用牛乳パックのリサイクルは、児童による限られた作業時間や洗浄場所の確保、アレルギー児童への対応などの課題のほか、児童のリサイクル作業（洗浄・乾燥）をフォローするためには教員による協力が必要不可欠であるが、授業準備などの業務に追われる教員への負担増加などの課題が多い。そのため令和6年度末に本事業は廃止し、引き続き、給食を通じて環境問題や資源の有効活用への意識を高めるための啓発を継続する。（市の意見） ・事業廃止の理由に「全市へ活動が広がらなかった」という話があったが、一年一地区ごとに進めていくというペースは、そもそも教育委員会主導の共通認識として共有していたため、実質2年間では二地区にしか及ばなかったのは必然であると考えている。立花地区拡大のお話には参加すらさせて頂いていない。 これは事業開始時に市民提案制度の契約期間満了に向けた、3年間の目標の設定及び、4年目以降について何も打ち合わせや計画を待たなかった事に起因していると考えられる。4年目からは学校給食課の直接的な事業にするべきだった。残り半年というところで、一方的に事業終了を告げられたのは協働事業とは呼べない。意義のある事業と共通認識できていたと思っていたので、とても残念に思っている。（事業者側からの意見）